2017年度卒業生

就職希望者就職率

上昇96.9%

今春、本学を卒業し就職を希望した学生の就職率は96・9%で、前年度に比べ1・1ポイント増、6年連続の上昇となった。

卒業生全体に占める就職者の割合を示す卒業者就職率は87・6%（前年度比2・8ポイント増）で7年連続のアップ。就職を希望する学生の割合は平成で初めて9割を超えた。

学部別の就職希望者就職率では全学部で95%以上となった。

最も高いのは経営学部の98・1%。前年度に比べ最も上昇したのは、ネットワーク情報学部で3・8ポイント増。文学部も3・2ポイント増だった。

男女別でみると、男子はネットワーク情報学部が98・7%（5・1ポイント増）、女子は経営学部が99・5%（0・1ポイント増）となった。前年度に比べ上昇幅が大きかったのは、経済学部男子、商学部男子、文学部男女、人間科学部女子。

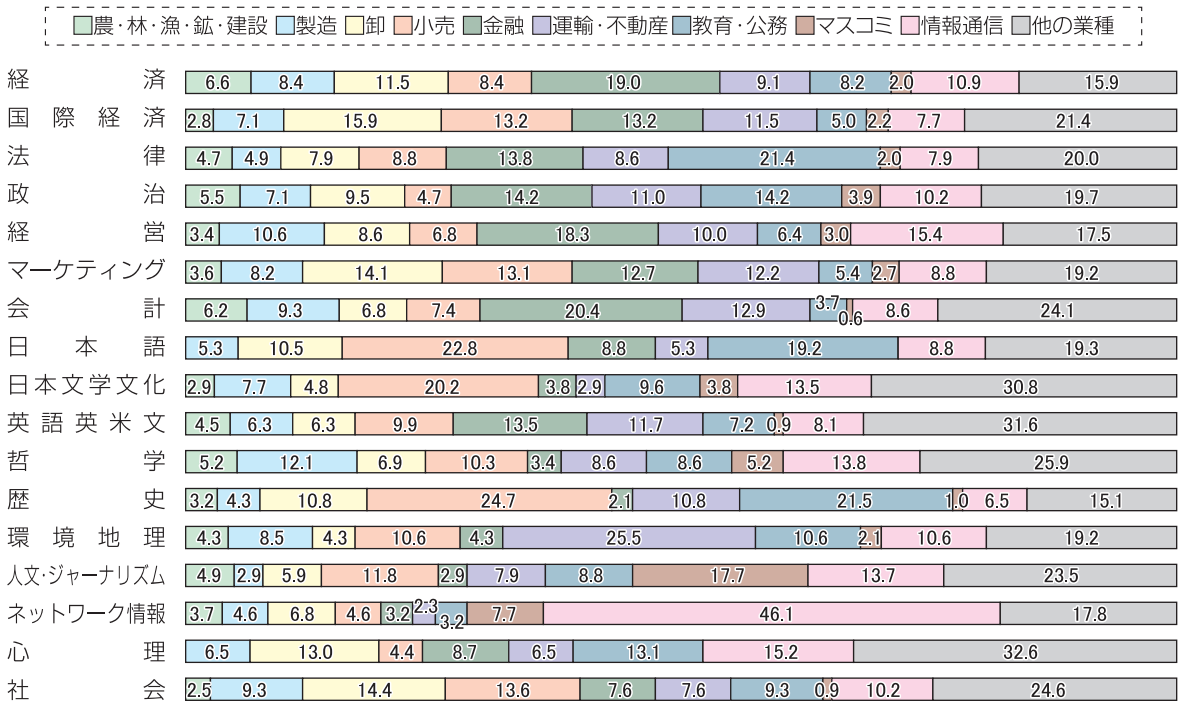
学科別の就職状況をみると、各学科とも専門性を生かした進路先となっている。人文・ジャーナリズム学科ではマスコミへの就職率が17・7%（5・1ポイント増）を占めた。経済学部経済学科、経営学部、商学部会計学科は、それぞれ金融業への就職が前年度より増えている。

学部別就職希望者就職率

（%、下段は前年度比増減、ポイント）

	全体	男子	女子
経済	96.6	96.5	96.7
	0.5	1.1	-1.5
法	96.6	96.2	97.5
	0.2	0.1	0.5
経営	98.1	97.3	99.5
	0.3	0.3	0.1
商	97.4	96.4	98.6
	1.1	1.5	0.6
文	96.5	94.8	97.6
	3.2	2.1	3.8
ネット情報	97.8	98.7	95.8
	3.8	5.1	0.8
人間科学	95.4	89.1	99.1
	-0.2	-6.6	3.5
全学部	96.9	96.3	98.0
	1.1	1.0	1.4

2017年度卒業生　学科・業種別就職状況



最新動向や支援策紹介

内定学生の体験報告も

育友会就職懇談会

就職活動の動向や専修大学の就職支援体制を紹介する育友会（佐々木悟会長）の就職懇談会が6月30日、神田キャンパスで開催された。講演や、内定を得た4年次生とご父母によるパネルディスカッションが行われ、ご父母・保護者約240人が耳を傾けた。

東洋経済新報社の田宮寛之氏は講演で、企業が採用活動の一環としてインターンシップを利用していると指摘。「ビジネスマナーが身につき面接にも強くなる。短期でもいいので3年次の夏までに体験するのが望ましい」と語った。

渡辺正志就職課長は本学の多彩な就職支援プログラムを紹介した。「事前予約なしにいつでも個別相談できる体制をとっている」として、就職課の活用を呼び掛けた。公務員試験講座の朱武英講師は、各種公務員試験の概要を説明した。

パネルディスカッションでは神谷大夢さん（経済4）、菅原通紀さん（法4）、河西桃子さん（商4）と、親の立場から湊美代さんと磯和明さんが経験を語った。

神谷さんはコンサルティング企業から内定を獲得。1年前は約10社のワンデーインターンに参加していたといい、「ほかの参加学生との意識の差を痛感した。自分に合った業界か確かめることもできる」と述べた。

都市銀行に内定した河西さんは100社以上にプレエントリーしたと語り、会場を驚かせた。「幅広い業種の情報を得ておけば選考途中で落ちた時に対策できる。情報を安心材料にした」と説明した。

菅原さんは出身地・宮城県の地方銀行に内定。Uターン就職をめぐり「親とは電話で頻繁に話し合った」と振り返った。

湊さんは息子（平30商）が今春、金融業界に就職。「2年次生までにしっかり単位を取っておくよう、親も目配りを」と助言。磯さんは商学部4年次の息子との会話のポイントについて語った。

参加したネットワーク情報学部1年次生男子の母親は「息子は1人で決める性格。何も話してくれないのでこういう場はありがたい。皆さんのお話を聞き見守る心構えができた」と笑顔を見せた。

▲　多くの育友会員が来場、講演に耳を傾けた

▼　体験談を語る神谷さん（中央）

インターンシップに参加して

卒業後の人生を考えるきっかけのひとつにインターンシップがある。期間限定社会人として現場で就業体験し、社会人と接することで「自分の興味や関心を知る」「働き方を考える」「視野を広げる」機会になる。本学は、企業・団体と連携する大学提携型インターンシップを夏期と春期に実施している。活躍の場所は企業や行政機関、NPO、全国の道の駅や農業法人、さらには海外での体験もある。（夏期の受け付けは終了。春期は11月に説明会開催の予定）

昨年8月、大学提携型インターンシップに参加した2人を紹介する。

働くことへの不安払拭

太田　真由さん（経済4）

公務員希望ですが自分が本当に向いているのか確かめたくて、東京都中野区役所で9日間のインターンシップに参加しました。

最初に配属されたのは政策室広報分野。取材し、写真を撮影、記事を書いて区のフェイスブックに掲載するという業務でした。初めての体験で、文章指導も徹底して行ってくれて、とても勉強になりました。次の部署では、職員向けに電子申請を周知するペーパーを作りました。「分かりやすくまとめていた」との言葉をいただき、うれしかったです。

このほか、区長と区民の対話集会も担当。最終日には業務を振り返りつつ、新規事業提案のプレゼンテーションも行いました。

始める前は、業務に携わるのが怖かった。何もできない自分が行って、迷惑をかけたらどうしようと思っていました。でも、職員の方に「自分のやり方でやってみて、間違ってもいいから」と受け止めてもらい、不安を払拭しました。

区役所は、私たちの日常生活を支えるところで、その業務は非常に多岐にわたることを体験を通して実感。そして、やはり自分は人のために働きたいとの思いを強くしました。

自信がないからとか、無給で時間をとられるのがいやだからとインターンシップに参加しない学生もいます。けれど、参加しないのはもったいない。「何ができるようになるか」を学ぶための時間だと思います。就職活動も前向きに臨めました。

「10年後の自分」を想像

鈴木　友和さん（法4）

3年次になり、就職活動を考え始めたときにキャリアデザインセンターの募集の案内を見て、企業で働くとはどういうことか知りたいと思い応募。20日間、川崎市の不動産会社で就業体験しました。

会社ではデータ入力、家賃などの計算、カスタマーセンターでの電話対応などを体験。仕事は大変だという思い込みがありましたが、職場の雰囲気や、達成感などから、働くことは楽しいことだと思うようになりました。もちろん自分にとって厳しい業務もありましたが、その経験から、将来職に就いたときに直面するかもしれない課題と、その乗り越え方を考えるようになりました。

職場には年配の方が多かったのですが、社長をはじめ多くの方からアドバイスをいただきました。ある社員の方から言われたのは「仕事って恋愛みたい」。一方的に売りつけるのではなく、相手を喜ばせ、ウィンウィンの結果にすることが大事だと聞き、なるほどと納得しました。

社員の方々の働き方を見ているうちに「10年後の自分」を想像できるようになりました。今の自分ができることやうれしいと感じることが10年後は違っているのではないか、これからの長い職業人生を考えたとき、「今」が基準でいいのか。就職活動や進路選択で常に考えました。内定を得るまでつらい思いもしましたが、長期間のインターンシップで仕事や社員の方々とじっくり向き合えていたから、乗り越えることができたと思います。